広島大学大学院社会科学研究科附属地域経済システム研究センター

第２回 公開研究会「過労自殺の拡大とその解釈について」概要

１．期日 2008 年１月 25 日（月） 17:15～19:00
２．場所 広島大学東千田キャンパス「206」
３．参加者（敬称略）
杉浦 孝雄 広島大学女性研究者支援プロジェクト研究センター
江頭 大蔵 広島大学大学院社会科学研究科
芦谷 宏子 （21 世紀職業財団）
小寺 純一 広島県広島地域事務所 税務局
山口 裕毅 広島大学教育学部第５類教育学コース
伊藤 敏安 広島大学地域経済システム研究センター
野崎 祐子 広島大学地域経済システム研究センター
４．概要
①伊藤センター長の研究会趣旨説明
身近な問題から地域経済を考える。月１～２回のペースで継続したい。
②江頭大蔵教授 材料提供（PPT 抜粋）
③質疑応答
・ 1998 年から中高年男性で急激に自殺が増加しているのは、失業率と連動しているのではないか（山一證券など大手金融機関の経営破たんなどの影響）
⇒無職者、就労者両方ともに自殺率が上昇しており、単純に失業率とは結び付けられない
・ 過労自殺・過労死の違いを区分する必要があるのではないか
⇒過労自殺は過労死の中に含まれると考える。どの自殺が過労自殺かは、家族や職場で要因を公開したくないという意向が強く、区分は困難。ここでは、自殺全般の傾向から過労自殺について考える。
・ 自殺は男性に多く、自殺未遂は女性に多い。
・ 自殺率の上昇に、高齢化の影響が考えられないか？
・ 自殺率と現金給与との相関を見る場合、労働時間を考慮し、給与額ではなく時間当たり賃金とすべきではないか？
・ 過労死の地域性については、特に認められない。過労自殺は増加しているが、過労死の要因になる諸症状（脳血管疾患や心疾患）については、医学の進歩により減少傾向にある。
・ 過労自殺の要因となる「働きすぎ＝サービス残業」については、経済学の立場から立証されている。⇒サービス残業は、当座の支払いがなくても、長期スパンにおいて昇給、昇進などで補償されている。

・　集団本位主義に属したまま自殺を図るのは？

⇒会社勤務の場合、年齢によって動機が異なる。仕事能力、仕事量、評価のバランスに対する認識は、若年層と中高年では異なる。

・　学生などでも、（プレッシャーによる）自殺はある。

・　過労死と過労自殺の区分について

⇒両者とも、途中までは同じコミットメント。過労死は肉体に、過労自殺は精神に現れた結果ではないか

・　1990 年代後半頃から、成果主義の導入がなされ、半期ごとに評価査定されるなど、終身雇用の感覚が薄れてきた。

・　企業の現場では、管理職が意図的に長時間の残業をする。

・　かつて日本的経営といわれた時代には、職場はチームと考えられ、お互い助け合う企業風土があった。近年は仕事が細分化され、個人間の競争が激しくなっているため、仕事の孤立化が起こっている。日本的経営の悪い面ばかりが強調されているが、チームで協力体制をとり、全体で働き方を考えることこそ重要ではないか。

⇒ワーク・ライフ・バランスにも通じる。

・　自殺率と地域性をみてみると、有効求人倍率などの経済指標との関連があるように思われる。

・　自殺と地域の特性については、複合的な要因があるのではないか。

・　自殺率の急上昇は、コーホートの効果による押し上げが考えられるのではないか。